

つながる



交流及び共同学習通信 第2号

令和8年4月

竜崎分校小中学部 教育支援部

“つながる”では、特別支援学校の特色「交流及び共同学習」について発信をしています。

交流及び共同学習とは…

「障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会」と記されています。

H31.3 文部科学省「交流及び共同学習ガイド」

また、小学校等の学習指導要領においても、組織的、計画的に行う学習活動として記されており、単なるイベントや行事ではなく、カリキュラムの一環として扱われています。

虹の原竜崎分校でも、全ての児童生徒が「交流及び共同学習」に取り組んでいます。近隣校で学ぶ児童生徒との「学校間交流」と児童生徒の居住地域内にある学校の児童生徒との「居住地校交流（こちらは保護者に実施の可否を決めていただきます）」の二種類があり、一緒にレクリエーションをしたり教科等の学習、行事への参加をしたりしています。

今回の“つながる”では、特に「居住地校交流」について紹介をします。



居住地校交流

居住地校交流は、児童生徒の居住地域の校区にある学校の児童生徒との交流・共同学習をしています。居住地校交流は、保護者の希望制です。令和7年度は、小学部児童は9名中9名、中学部は5名中4名が希望しており、小1は1回、それ以外は2回実施しました。就学前からの繋がりや卒業後の繋がり、近所の児童生徒、学校との繋がりを継続し、深めることができています。

小学部低学年の交流では、特に幼稚園や保育園時代の友達との再会を通してその喜びを表現したり、学校では見せない表情や友達との関わりを見せたりと、居住地域の児童と“つながる”機会になっていると感じています。居住地校交流を始めてから出会った友達とも年に数回の交流を重ねる中で顔見知りになって、地域の行事等でのやり取りにつながっていることもあります。



虹の原からはパラバルーンを使った活動を紹介。相手校の運動会で踊られた地域の踊りを一緒にしました。

小さい頃から知っている友達と一緒に活動できてうれしいな。



小学部高学年や中学部の交流では、地域の田畑を利用した農業的活動や地域の祭りに参加して、相手校の児童生徒だけでなく地域の方々や地域の文化とも“つながる”機会になっています。



地域のJAの皆様に教わりながら田植えと稲刈りを体験しました。居住地の友達とも協力して取り組みまし

相手校の生徒とともに地元のお祭りに参加。いつもと様子が違う町の雰囲気です。



お互いに学習活動で頑張ったことや学校で流行っていること等を紹介したり見せ合ったりする中で、学習したことを学校外でも発揮する、自分の経験や好きなことを伝えるという機会にもなっています。

交流は、普段の学校の日課、学習をしている場所、一緒に学ぶ先生や友達等、環境が違います。はじめは学校や教室に入ることに戸惑っていた児童も交流を繰り返す中で徐々に友達からの働き掛けを受け入れたり、やり取りを楽しんだり、学習活動の中で自分の力を発揮したりすることができるようになってきています。



このように、居住地校交流は、身近な地域と“つながる”機会となっており、卒業後や将来の地域社会での生活にも“つながる”ことを意識して実施されています。

また、先にもお伝えしたように、居住地校交流は保護者の希望制です。交流を希望されている保護者がどのような願いをもっているのでしょうか。虹の原壱岐分校は、毎年保護者向けの希望調査を行い、現在の地域との関わりや地域とどのように関わっていきたいか、また、どんな活動をしたいのかを教えていただいています。(以下吹き出し内は、令和6年度、7年度の居住地校交流希望調査における保護者の回答より)

Q：これからや将来にわたってどのように地域と関わっていきたいですか？



地域の施設を利用したり、買い物をしたりできるようになってほしい。

本人のもつ困り感や特性を少しでも理解してもらい共存の意識、言動で接してもらったり、接していったりしてほしい。

できる範囲で地域の行事に参加させていきたい。

Q：居住地校交流における保護者の願いは何ですか？

園で一緒だった友達や新しい友達とたくさん遊んでほしい。

相手校の子供たちのことを覚えているようで、会うとうれしそうに見える。小学校の間だけでも交流があればうれしい。



ここまでお示した通り、居住地校交流は、地域での生活に“つながる”交流として実施されています。卒業後も、身近に住む人々との関わりは地域生活の基盤となります。日頃の学校生活ではなかなかお互いを知ることができない中でも計画的に、継続的に交流及び共同学習を実施していくことで、地域社会との繋がりが広く、深くなっていくことを実感します。

さて、“つながる”では、「交流及び共同学習」についてご紹介してきましたが、「交流及び共同学習」によって、人と“つながる”、地域と“つながる”、知識と体験が“つながる”、過去や未来の自分と“つながる”ことがイメージしていただければ幸いです。